

氏名： 坂本 佳鶴恵 (SAKAMOTO Kazue)
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
職名： 教授
学位： 社会学修士 (1984 東京大学)
専門分野： 社会学、特に社会意識・文化論および家族・女性に関する研究
E-mail： hashimoto.sakamoto.kazue@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

社会意識／文化／家族・ジェンダー／メディア・コミュニケーション／

◆主要業績

- ・「女性雑誌とジェンダー規範、ファッション意識の関係—大学生の読者調査分析」『人文科学研究』第5巻 p.123-134
- ・『外見に関する行動・意識と格差との関係—首都圏男女の調査報告書』(研究代表者)p.132 お茶の水女子大学グローバルCOEプログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」p.132
- ・「消費社会の政治学」天野正子・伊藤公雄ほか編『表現とメディア』岩波書店 p.257-267

◆研究内容 / Research Pursuits

1. 首都圏の20-49才の男女を対象とし、外見と格差との関係についてランダムサンプリングによる計量的調査をおこない検討した。外見については、若年女性を対象としたファッションに関する若干の調査がある程度で、これまであまり学術的な調査の対象となっておこなかったが、外見に関する意識や行動は、性別、年齢だけでなく、階層、年取、学歴によって差があること、とりわけ学歴の高い人ほど外見を重視する傾向があることが判明した。
2. 以前おこなった女子大学生を対象とした調査から、女性雑誌とジェンダー規範意識との関係を分析し論文として発表した。女性雑誌は、しばしば、ジェンダーをめぐる規範の普及、内面化に関与していると考えられているが、女性雑誌を読むことが、こうした性役割規範の意識と直接関係しているとはいえないことを論じた。
3. J. バトラーのパフォーマティビティの概念について再検討をおこなった。
4. 地域メディアと地域との関係について考察をおこなった。

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部のゼミでは、各自のテーマ発表と、社会学の分析方法を具体例を通じて広く学ぶとともに、理論との接合について議論するため、前期は幅広い社会現象のインタビュー調査による分析事例を集めた『ライフ・ヒストリーを学ぶ人のために』、後期は、理論と質的・量的調査分析を組み合わせたE. ホックシールド『管理される心』を読み、検討していった。社会問題論では、前半はおもにドメスティック・バイオレンスを具体的事例としながら、機能的分析を、後半は、様々な事例を対象に、構築主義的分析を講じた。

大学院では、各自のテーマ発表のほか、前期はフーコーの『性の歴史』を、後期はパトラーの『ジェンダー・トラブル』を議論した。

このほか、卒論の個人指導・共同指導、修士論文共同指導、博士論文審査を担当した。この年は、9本の卒業論文審査、1本の修士論文審査、博士論文では、副指導として審査を2本担当し論文の指導・審査をおこなった。

◆研究計画

1. ファッションを媒介として、アイデンティティ、身体、雑誌、ジェンダーの関係についての考察を深める。
2. 女性雑誌の研究について、成果をまとめる。

◆メッセージ

現代社会では、さまざまな情報が氾濫しています。いかに情報を集め、その良否を確かめ、自分で考え、自分の言葉で語っていくか。私の授業が、そうしたことを、学んでいける場になればと思っています。